

[SPECIAL GUITAR LECTURE with synchronized DVD] 華麗に魅了する驚嘆次元の牙技を特別公開!!

Actual-thing to Play

S 名手の真髓 S

“名手”リッチー・コッツェンが本誌読者のために披露してくれた全14エクササイズ・フレーズと計5デモンストレーション! 最新ソロ「SLOW」にも通じる、RK奏法の精粹ファクターである!!

速さや選手のみならず、例えば手キン式のピンキングを志せばで弾く辺りからは、スポテンティオスな音も出るが、ジャズ及びフュージョン的な要素もあるが、このプレイスタイルが、弾く時は「かなりロックしている」という感じだ。特別付録DVDの録音セッションでは、そこどころが高鳴り出来ると思うが、

多彩に魅せるバックイング技 (Ex-1~Ex-6)

Ex-1~Ex-4はバックイング4型 Ex-1はソウルフルなカッティング。Ex-2は“ピッキング+中指等”の拍保まを使ったファンク・タイプ。Ex-3は“指指+中指等”で弾くファンクの別パターン。そしてEx-4は4ビート・ジャズ・タイプ(これもフィンガー・ピンキング)と

いう、これもリッチーならではのワイルドな、型ではそれなりが難しはあるが、弾いてくれるのは1ノリもある Ex-3、Ex-4辺りが、最新ソロ「アルバム」(SLOW)収録の「Conflicted」以下の曲名同様に収録されたジャズ・タイプは、友達にハッタリカマサゲに誘惑かも?

※ Ex-2種類の中間に登場する「3弦開放のQC(クォーター・チョーキング)」は、ナットとヘグの間の

Ex-1 ◆ [Backing Work #1] ◆ ソウルフルなコード・カッティング

※3弦押さえる人差し指で、実4弦をコードとしておく事が一番の基本。ピンキングはオルタネイトキープ、リズムを崩さないようにしたい。

Ex-2 ◆ [Backing Work #2] ◆ 指弾きを加えたファンク・パターン

※ピッキング、中指を中心とした指弾きによるパターン。指弾きする面の硬質のアタックにより、ファンクなニュアンスが生まれる。他にそこは、程々に強調したい。

Ex-3 ◆ [Backing Work #3] ◆ 指ピンキングのファンク・パターン

※基本的には爪先一筋指。その他=中指等のフィンガー・ピンキング例(運動中の“*”は右手親指ピンキング)。16分音でハキリとしたリズムもこのパターンでは入る。それでノリを出している事に注目!

余弦部分を左手の指で押し込む。[SLOW] 変法解説のP-9に載せたP-8(Ex-5)がこれと同じ。

Ex-5、**Ex-6**はテンションを効かせたコード例だが、これは理論的な教材にあらず。この手のフォームに付き物であるストレッチで、左手を少々サイズのみようというものである。フィンガリングを違

画面から観える一がテーマだ。

十八番のリック・パターン (Ex-7~Ex-9)

「I Can Make You Happy」でも聴かれる**Ex-7**は、五線譜とタブ譜の間に記した区切り、つまり5自フレースの繰り返しになる。そしてその区切り部分、第5

音から第6音、第10音から第11音は[■→■]のエコノミー・ピッキングになるところがポイント。

レガートの**Ex-8**は、“ピッキング+中指”弾きによるリッチー得意のリニア・フレーズ、特別付録DVDではスポンティニアスな弾き方をしているため、譜面は整理し、図1も載せた。細かめに拘らず、全体の流れを



Ex-4 ◆ [Backing Work #4] ◆ [コンフリクテッド]風のジャズ・バックিং

●DVD映像では一見複雑だが、押さえるコードもベースラインも1つ1つは意外にシンプル(P-1~P-8)。ゆっくり弾けば必ず出来る(1=右手指指ピッキング)



人 小 人 中 人 小 人 中 人 小 人 中 人



▲5弦8f→[4弦8f+3弦9f+2弦10f]。



▲人差指ベース音を6弦7fに移動。



▲5弦8f→[3弦8f+2弦8f]。



▲人差指ベース音を6弦6fに移動。



▲5弦5f→[4弦5f+3弦6f+2弦7f]。



▲人差指ベース音を6弦4fに移動。



▲5弦5f→[3弦5f+2弦5f]。



▲人差指ベース音を6弦3fに移動。

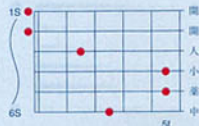


Ex-5 ◆ [Chord #1] ◆ ストレッチ強化コード1

●中指と人差指の開きが最も過激。特に人差指は、3弦2弦間開きを消さないという使命がある。ここを過激的に練習したい。



開 開
人 小
人 中

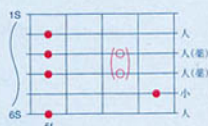


Ex-6 ◆ [Chord #2] ◆ ストレッチ強化コード2

●“人差指+中指”の基本フォームを崩さず、その中で如何に軍艦(下図の「印」)をH/Aで加えて動かせるかがテーマ。



人 人 人 小



クトを覚えておけば、当然弾きこなすは早い!

「Got It Bad」風のEx-2では、最後の連続ピッキング・フレーズをマスターしたい。曲最後のキメになるこれは、左手の開きが結構なストレッチ意味。P-1~P-

3の状態。故に両手のタイミング合わせにやや苦勞するかもしれないが、あくまでも基本レベルだ。半音スナップによる正確な振りを、一日も早くクリアせよ。

で、そのペナントニック使用フル・ピッキングの最高峰が「Rely On Me」風のEx-3。ザック節負けの結構難易度が高いが、その動きに関しては図1参照。このフレーズは、國中、線で囲んだ3つのポジションを基にしている。譜から3小節目1拍までは、左と真ん中のポジションを行き来、そしてその後は右のポジションを軸として動くという具合だが、とにかくこの3ポジションを視覚的に覚える事が実コピに繋がる。

「Scared Of You」風のEx-4の前半3小節目は、DVD連動企画のEx-8(P.85)と同じ「ピッキング+中指」弾きの十八番。最後のスウィープ部分もスイング気味ではあるがペナントニックだ。併せて聴覚的に新しい!

Ex-5は「Ohio」風のブルース。2小節目の3弦開放は、ナットとペグ間で弦を押して(P-B)音量を上げて

いるが、意外にも歴史ある技なのだよ、これは。

未知感覚のフレーズ体験 (Ex-6~Ex-9)

ジャズ/フュージョン的なフレーズにも「ここ!」というポイントはあるが、全体は流れるそもそもロックとは異なる動き、これが肝だ。「Slow」風のEx-6、「Gold Digger」風のEx-7、「Let's Say Goodbye」風のEx-8はその好例。何かの技というより、ロック・サイドの人間にとっては未知なるフレーズ感覚を体験する事が、大いなる今後の糧になるはず。強制的には覚えにくいかもしれないが、出来る箇所から手を付けて少しずつ慣れて欲しい。

最後のEx-9は「Sapphire」風のメロディーだが、この時のチューニングは「6弦と5弦が1音下げ!」という特殊なスタイル。そのため、例えば後半の連続キョリは、実際に弾いてみると違和感と新鮮さが同居する。遊んでいる内に斬新な旋律も思い浮かんだりして…。



Ex-8 ◆ フュージョン・タイプ その3

「レッツ・セイ・グッドバイ」風

難易度: 3級以上。これまで動きはリニアに覚えて来たが、まず1~2小節目、3小節目、この2つの「連続」を視覚的に覚える。最初はそれをストレートに行き来して慣れよう。

Ex-9 ◆ 変則チューニングによるアダルトな旋律

「サファイア」風

難易度: 3級以上。1音ずつ下げたチューニング。テクニク的には、ピッキング・ダイナミクス(強弱)を効かせて、フレーズに抑揚を付ける事が大事。唱うように弾く。この感覚が必要だ。

備わっています。2小節目の5弦+4弦パターンをよく練習しておくのが賢明かも。

Ex-9は、ギター独演ピース「The Answer」でも聴けるホルトーン・スケールのリニアなレガート。ハンズラップ/ブリング/スライドという、テクの基本が問われる章外なメロディ。

技の華麗ハイライト (Ex-10~Ex-14)

Ex-10, Ex-11は、**図2**のフォームを使ったタッピングの2パターン(Keyは異なる)。Ex-10はペンド、Ex-11は右手指のスライド…という少々の変種もあるものの、堪能したいYG読者には必読かも。

そして、**Ex-12~Ex-14**はハイライトのアルペジオ・スクワサイズ、**図3**(Ex-12)、**図4**(Ex-13)、**図5**(Ex-14/上)が1拍目と3拍目のフォーム。下が2拍目と4拍目のフォーム。各左手の動きを憶えるのが先決だが、その後は「下図時にはピックアップをしない」といふ点を特記しなければなりません。

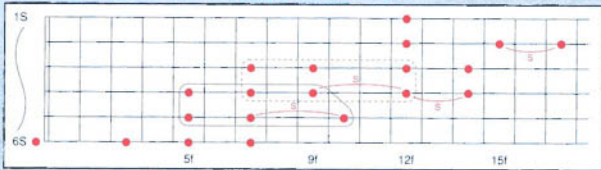
Ex-7◆[Pentatonic #1/Picking]◆「アイ・キャン・メイク・ユー・ハッピー」風の5高連続フレーズ

●1小節目と3小節目の各右手は、5度ずつ下進して行くペンタニック・ブレイク。弦材から気管支管から音波伝導の4HC(●●●●)のエコミーニスティックで弾いている。

Ex-8◆[Pentatonic #2/Legato]◆十八番のリニアなレガート・パターン

●中からやすい基本は、2小節目(5弦+4弦)と3小節目(4弦と3弦)のパターン。これを繰り返して練習し、他のポジションに当てはめる。そんな工夫のいっかも。尚、譜面中の“m”は右手半指ピックアップ。

図1◆Ex-8のEマイナー・ペンタニック上昇リニア・ポジション



譜面上に示したピックアップ記号の通り、本来アップのスイープをするダウンラインで、リッチーはピックアップをしていない。Ex-12の4拍目のように、リズム的な勢いを付けるため最初の弦だけ(Vで)弾く事があるが、連続Vスイープはしないのが彼式だ。

あるいはEx-13の1小節目2拍頭(5弦8f)、この音も彼はピックアップしていない。普通に考えればダウンで弾く場面だが、直前の音から慌ててまたアッするより、フィンガリングだけで音を出した方がスムーズで事だろう。それが楽譜で出来るからこそ“書き”

であり、余裕か。

とにかく、左手のフィンガリングだけでダウンラインの音を出して行く事がここではポイントになる。しるリズムカが...。これは中々の強敵だ。強く、しり動きを小さく、この矛盾を解く鍵はインパクト!

Ex-9 ◆ [Whole Tone Scale/Legato] ◆ [ジ・アンサー] 風のレガート・フレーズ

● 超て単純な音程を持つのはフルトーン・スケール。それを使ったレガート・エクササイズだ。五線譜とタブ譜の間に記した区切りを参考に弾けば分かる通り、奇数節目と偶数節目では「タートン」



▲1弦17f小指・15f中指・13f人差指。



▲1弦15f小指・13f中指・11f人差指。

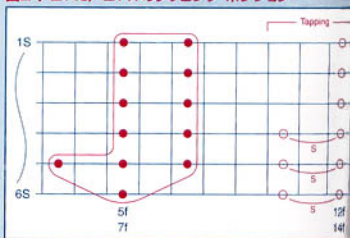


▲1弦13f小指・11f中指・9f人差指。



▲2弦8f小指・6f中指・4f人差指。

図2 ◆ Ex-10/Ex-11のタッピング・ポジション



Ex-10 ◆ [Tapping #1] ◆ ベンドを加えたタッピング・パターン

● タッピング時のベンド(チューニング)は、左手の動きで TAPしている右手の手で上げるのは別法だ。もちろん、NOルールのロックでは無理してやる場合もあるが...

Ex-11 ◆ [Tapping #2] ◆ スライドを加えたタッピング・パターン

● 右手TAP時のスライドは(6弦→4弦の14f→12f)だが、Keyを考えれば(2弦1弦の14f→12f)もNO問題。3弦なら(14f→16f/14f→9f)が変身。

図3◆ Ex-12の3本弦マイナー型アルペジオ

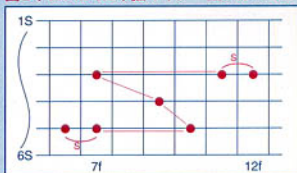


図4◆ Ex-13の5本弦マイナー型アルペジオ

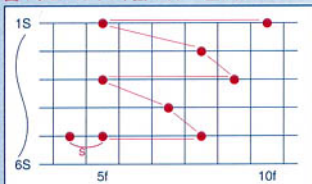
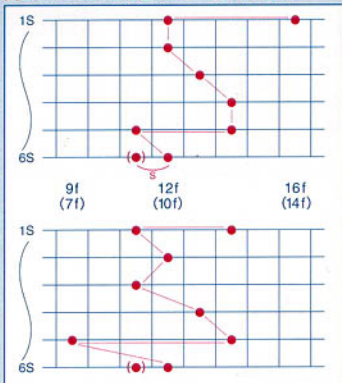


図5◆ Ex-14の6本弦メジャー型アルペジオ



Ex-12◆ [Arpeggio #1]◆ 7th/9thを含むEマイナー・アルペジオ

●本文中にも書いたように、4拍目の3弦7fだけアップ・ピッキングするが、4弦9f→5弦10fはピッキング無し。左手フィンガリングだけで音を叩き出して行く。

Ex-13◆ [Arpeggio #2]◆ 7th/9th/11thを含むDマイナー・アルペジオ

●1小節目2拍最初の5弦8fはピッキング無し。直前の7fから、同弦を置かずにまた7fで弾くのは効率が悪いと思われる。本人は意識していないはずだが。

Ex-14◆ [Arpeggio #3]◆ メジャー4コード移動アルペジオ

●これも下隣時のVスウィープは無し。フィンガリングだけで音を叩き出して行く。音をクリアに出す事ももちろん。それを良いリズムで行なうのが肝になる。音量和リズム、その2つをテーマにすべきだ。

LEGATO COOL

Take a deep breath and chill out, no need to be a virtuoso of Richie's level to tackle Legato playing, where Richie is without a doubt one of the master.

In "Sol". Pay attention of the position of your left hand, make sure it doesn't stick to the neck.

Exercice 1a

1



Same principle applied to a different string.

Exercice 1b

2

LESSON

Lets extend this exercise to the lower octaves.

Exercise 1c/d

5

4

Richie suggests a refreshing way to use the pentatonic scale.

Exercise 2

5

6

Now a maestro in the art of sweeping, Richie revisits for us two fundamental arpeggios.

Exercise 3&4

7

8

9

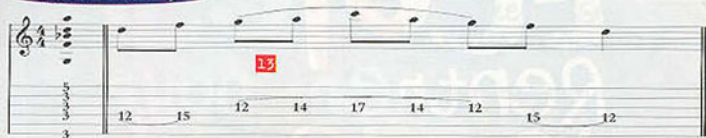
10

11

12

Another genius way to apply legato playing with the same brilliance.

Exercise 5



Who said all of this was lacking soul? Here is the intro of "Reach Out" ("I'll be there") by the Four Tops. Richie added a 'power groove' twist to this song he has covered on his album MHFR. Undoubtedly 100% SOUL!

Exercise 6



It's now official, from the mouth of Richie himself, he will be the new guitarist of Mr Big. Their upcoming album should be released in Japan first, in september.